

浪江の

こころ通信

・第56号・



平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先が見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム(※)が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

※一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第56号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒964-0984 福島県二本松市北トロミ573番地
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243(22)4218





吉田 典子さん(川添)

取材者：おおむた・わいわいまちづくりネットワーク 彌永・村上
取材日：12月19日

ゆっくり 生きています

「ここに来るまで、心がいっぱいいっぱいでしたが、ゆっくり空や海を眺めていると、自分の中で何かが大きく変わったことを実感します。浪江の皆さん、決して近い距離ではありませんが、高島へ遊びにいらっしゃいませんか」

あの日から決して平坦ではなかった道を、音楽と・仲間と共に歩き、今、典子さんの瞳は、夕陽に染まった高島の海に負けないくらい輝いています。



◆**あの日からのこと**
浪江に住んでいた頃は、川内村と葛尾村の中学校で音楽科の非常勤講師をし、浪江の大事な仲間たちと「bar NAMIKEN」で語ったり、音楽を聞いて楽しんだり、私が所属する音楽グループ(RAINBOW MUSIC)でLIVEをさせてもらったりと、私の生活にはいつも音楽がありました。ただ、どの震災・原発事故があり、友人たちもみんなバラバラになり、いろいろな事が一変し、自分の中で何もかもが整理がつかなくなり、そんな中で、音楽ができない状況も、音楽をできずにいる自分自身にも嫌になった時期が続き、自分の心の整理もつかないのに、教壇に立って子どもたちと向き合うなんてできないと感じ、教職から離れ、自分自身の音楽の勉強(ボイストレーニング)をやり直そうと思いました。技術を磨くのと同時に、心を整えていたんだと思います。

◆**高島での生活**
全校生徒7名の高島中学校と、隣の伊王島の中学校で音楽科非常勤講師をやりながら、島のおじいちゃんおばあちゃんのお健康維持のための合唱団を作ったり、音楽ライブ活動も再開しました。音楽と豊かな自然と温かい人々に囲まれて、ゆっくり暮らしています。

◆**これからのこと**
ここに来た当初、島の人から「何でこんなところに来たの?」

▲発売中のCDとコンサート終了後の仲間たち



石井 壮明さん・貞子さん(西台)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 鍋嶋
取材日：12月4日

浪江が好きだから

震災前、「双葉ギフト」を経営。浪江町と富岡町に店舗を持ち営業していた石井さんご夫婦。今は、千葉県成田市に家を新築、夫婦二人で暮らしています。壮明さんのお父さんと妹さんも同じ敷地内に家を建て、行き来する日々です。



▲成田で開催されたマラソン大会で3位に入賞!!



▶浪江町で開業していた時のカタログ

◆**壮明さん**
震災後、父、妹、妻と長男の5人、津島の体育館に一時避難した後、猪苗代の中ノ沢温泉、燕三条のホテルに避難。取引先のメーカーの厚意で、一軒家を提供してもらい、3週間ほどお世話にもなりました。その後、千葉県印西市に暮らす叔母を頼って、成田市のUR*の団地に入居しました。それから4年、3か月前にURの団地から徒歩5分のこの場所に新居を建てました。父と妹も同じ敷地内に建てた家で暮らしています。この土地の元の持ち主は、いわき出身の人、仲介してくれた不動産屋さんは会津出身、偶然のことですが、安心できました。浪江と成田は気候が似ています。

◆**貞子さん**
震災前、店舗管理は私が担当、夫は営業に走り回っていました。朝から晩まで仕事に追われていましたから、2人の息子たちの剣道の試合を見に行くこともなかなかできず、保護者の

◆**浪江が好きだから**
震災後、長男は以前働いていたギフトメーカーから、戻って働かないかと、声を掛けられ、今は札幌で働いています。「浪江が好きだから、できる時が来たら帰って店を再開したい」と息子は言います。浪江には、お墓もあります。私たちの代では無理でも、息子の代になったら、震災前のように店舗営業ができたらと願っています。どこで暮らすも、思い出は浪江にあります。

*UR(都市再生機構)・2004年7月に都市基盤整備公団と地域振興整備公団の一部が一つになって設立された独立行政法人



広島県

渡部 洋行さん・恵子さん(北幾世橋)

取材者：ひろしま市民活動ネットワークHEART to HEART 竹内・中倉
取材日：12月15日

自由に暮らしています！

原発事故後間もなく、広島県安芸郡坂町の公営住宅に移られた渡部さんご夫婦。ご主人の洋行さんは寝たり起きたりの生活ですが、妻の恵子さんはご主人のお世話をしたり、ご近所さんと話しをしたりと、パワフルに日々の生活を送っています。



▲お二人並んで笑顔のツーショット！

◆**亀ちゃんのこと**
亀ちゃん(12月1日号掲載の吉田亀雄さん)には随分前から良くしてもらっているの。お父さん(洋行さん)と仕事の同僚だったから、前から仲良し。普段からタブレットやLINEでもしょっちゅうやりとりしている。昨年は、亀ちゃんと身体が不自由なお父さんと私で黒部ダムへ行きました。亀ちゃんに段取りしてもらって、景色も良

◆**坂町に来てからのこと**
次男が自衛隊にいた縁で、原発事故後の3月下旬には現在の住宅に入居しました。当初は近くのお好み焼き屋で働いていたけど、「広島に原爆が投下された時、福島の人は何もしてくれなかったから(お好み焼きは)食べないよ」と言われたこともあり、その後辞めました。今はお父さんのお世話と家事をしています。ずっと自宅に居るので、団地アパートの住民を自宅に招いてお茶を飲みながら喋っているの。玄関にはちゃんと表札を出して、扉は開放して、「お茶しない？」って声をかけるわけ。時には「なんで扉を開けておくの？」と聞かれることもあるけど、浪江では当たり前だったから。今では団地のことは全部わかる(笑)。長男は2年前に結婚して、矢野(広島市安芸区)にいますよ。

◆**浪江の我が家のこと**
我が家は放射線量が高くて、とても住めない。東電のGM計数管で計測すればわかるんだけど、誰か計ってくれないかなあ。この線量では到底住めるわけがないので、できれば土地を買ってもらいたい。廃棄物を埋めてもらってもいいと思っています。近くの人は浪江に帰りたいと言っているけど、帰っても水は飲めないし、住む環境は整わないでしょう。自宅の写真は持ってきているけど、見るのはつらいです(その後、自宅は本年1月に取り壊されました)。

今年9月には復興住宅が出来る予定で、既に当選しているのだから、帰りたいけど…。もし帰ったら、うちでお茶を飲みましょう、浪江のみなさん！



宮城県

鈴木 莊司さん・みよ子さん(幾世橋)

取材者：地域社会デザイン・ラボ 遠藤
取材日：12月14日

お互いに遠慮せず、絆を深め合いましょう！

震災前は、消防署近くで商店を運営されていた鈴木さん。その後、仙台市に移り住み、現在は仙台市太白区に新築した自宅に、夫婦二人で暮らしています。震災から約5年経つただからこそ、「絆」を大切に未来につなげていきたい、という強い思いをお持ちになっています。



▲新築した自宅のリビングルームで

◆**久々の再会**
つい先日、福島に知人に会いに行ってきました。震災前に毎日お店にお越しくださっていた方が今はお元気かな、どうされているかなと思ったりからです。また、浪江の同級生である無二の親友たちとも再会してきました。昔話が尽きなく楽しい時間を過ごしてきたところです。今、まわりを見渡してみても感じるのは、「絆」が薄れてきているんじゃないかな、ということ。会いたい・今どうしているのかな、と思っではみるもの、お互いに遠慮して「会おう」とい

う一言が伝えにくくなっているなど感じます。
宮城県には約700人の浪江町民が暮らしていて、花見やお茶会を有志で実施しています。私たちも予定が合う時は参加していますが、このようなゆるい繋がりが継続して、さらにお互いが元気づけ合えればいいですね。
我が家は常磐自動車道路の名取インターから車で5分なので、お世話になった皆さん、お気軽にぜひいらしてください。ご連絡をお待ちしています。

◆**現在の普段の暮らし**
自宅を新築したのは平成26年7月。以前住んでいた集合住宅から遠くないので環境にも慣れました。近くには、知り合いや同級生、親族も住んでいるので安心です。庭には、小さな菜園を作り、野菜の成長や収穫を楽しんでいるところです。一緒に暮らしていた息子は、仕事のため現在は原町に住んでいます。私(莊司さん)は、何かやっけないと余計なことを考えてマイナス思考になってしまうので、趣味を楽しむようにしています。海釣り、パソコン、プールでのウォーキング、散歩など。私(みよ子さん)は、夫と一緒に